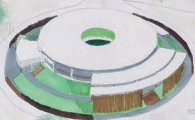


自然と過ごす丘

花と緑が作り出す都市型サードプレイス



高層オフィスビル、タワーマンションなどが立ち並ぶビル街に「東京の森」を創り出す。会社員、家族連れ、カップルなど多くの人が緑と木の空間で自然を感じ、ほっと一息、心身ともにリフレッシュできる憩いの場である。室内のブックカフェには、多層素材を使用したイスやテーブル等があり、木の温もり、自然の香りを感ずることができる。太陽のひかりが差し込む大きなガラス窓からは、沢山の花や緑を見ることができ、室内にいながら自然の中にいるような空間となっている。

Exterior perspective



テラス

テラスの下は駐車庫としてあり、そこからエレベーターでブックカフェに入ることができる。



フラワーショップ

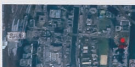
フラワーショップがフロアーになる。ブックカフェのメインエントランスに繋がる入口



スロープ

緑の心地よさからスロープは、自然を感じながら、ゆったりと歩きたい場を創ることができる。

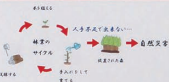
Site



東京都 品川区

緑地、駅前緑地をはじめとする緑地があり、駅前には様々な企業の集積地、タワーマンション、ホテルが建ち並んでいる。しかし、一方で数百年前からの第一号「高層ビル」として高い歴史を誇る建物もある。駅前としての価値を再考する契機を創り出すため、江戸時代以降使われていた東京の多摩川流域の木材を資源とし、緑との温もりを感じて居心地の良い街づくりを目指す。

Material



「森の心」とは

江戸の街づくりにも関わらず、江戸の多摩川流域の多層木造建築で造出される環境「森の心」を再考する。江戸時代に創りだした多層木造建築の歴史も、現在は人手不足や、建築コストの高騰など、その為、上層階などの自然災害や、環境変化の影響を受けている。本建築は自然環境を考慮して、環境安全に配慮し、都市の心「森の心」を創り出す。

Diagram



ドーナツ型により得られる太陽のひかり



高さを与え丘の上に建つことによる視線の変化

配置がない建物が構図に埋もれ、目立ちにくく開放的で入りづらい空間を創り出す。

配置があると建物の人や建物から目立ちやすくなり、インパクトを高め、建物からも開放的で暖かい空間を創り出す。

Design drawing

